

# 4年前、大地震M7.3が襲う

大きな被害をもたらした鳥取県西部地震。全町民が助け合い、一丸となって復興を目指しました。

写真で震災当時を振り返ります。

倒壊する家屋。黒坂、下榎地区は特に被害が大きかった



水道施設にも被害が出る

臨時開設のガレキ置場



避難所は最大時で10か所（約800人）

家の中はタンスなどが倒れ無残な姿に



## 日本一小さな「蔵」美術館（上菅） 地震記録写真展を開く 震災体験を忘れない

鳥取県西部地震から4年が過ぎ、震災体験を忘れないでほしいと、10月1日から6日まで、日本一小さな「蔵」美術館（上菅）で、鳥取県西部地震4周年企画写真展「あの日…。明日へ…」が開かれました。

日野ボランティア・ネットワークが、写真展を通して、地震発生当時を振り返ってもらい、今後の防災体制など

日々の暮らしを見つめ直すきっかけにしてほしいと企画。被害家屋や避難所の様子、復興支援やボランティア活動など震災当時から復興までのまじの姿を撮影した写真など約160点が展示されました。

会場を訪れた、住田静枝さん、小林しま子さん、柴田栄子さん（ともに上菅）の3人は「写真や全国各地から送られてきた激励の手紙を見ると、当時を思い出して涙が出そうになった。4年が過ぎ、薄れつつある記憶をいつまでも持ち続けていかないといけないと思い、よいきっかけになりました」と話していました。

会場の「蔵」美術館（小谷博徳さん所有、上菅）は今年の春に開館。江戸時代後期の蔵を地域の文化振興に活用しようとして改装したもの。白壁の跡が今でも残っています。



震災時の写真や資料を見て、4年前を思い出す来館者たち